

# 「宇宙からの贈りもの」

日本科学未来館館長/NASDA宇宙飛行士 毛利 衛 氏

平成15年6月14日(土)新潟市民プラザホールにおいて、工学部創立80周年記念講演会・全学講義として毛利衛氏による講演が行われました。全部局から500人以上の参加者があり大盛況でした。映像を使つての講演でしたが、以下にその内容を要約します。

私は、宇宙に二回行くチャンスがありました。一回目は科学者として、地上ではできない新しい材料や医薬品を作ることが目的でした。位相差顕微鏡を覗いて細胞の写真をとっていたとき、目が見つかったので、窓から地球をみました。そのとき、今見ていた顕微鏡の細胞と窓に映った地球表面の形が似ていたのです。ものごとはスケールが違っても、相対的なものではないか、と思いました。すべてのものは大きさを越えた共通点があるのではないかと思ったのです。

二回目は陸地の立体地形図を作るためのデータ集めが目的でした。毎日地球を見る仕事でした。スペースシャトルは約90分で地球を一周します。たった90分の間に、地上の24時間の生活を(直接は見ませんが)見る訳です。このようにみると、時間というのは相対的なものではないか、と思います。空間も時間も相対的なもの、と考えるときにきているのではないのでしょうか。

誰もが宇宙から見る地球は美しいと言います。それは、自分がそこから来たという思いがあるからですが、それだけではなくもっと深い意味があります。そのキーワードは生命です。生命には、環境に挑戦し順応し発展させる能力があるのです。



田中さんや小柴さんのノーベル賞を私たちはうれしいと思います。松井やイチロー、高橋尚子や中田選手が活躍すると、また小池先生が美しい歌を詠むとうれしいと思います。それは、生命が更に繁栄できる能力を獲得している、ということを感じるからです。ある個人が一つの限界を超える能力を得ると、別の者がそれに続き、こうして社会の能力が上がります。そういう生命の基本がわかれば、自分の成長の面白さを覚え、いろんな目標が実現します。大学生は、今のうちに自分の能力を知り、その意味を考えながら今の勉強をして欲しいと思います。

地球上には様々な生物がありますが、地球以外は生命が存在できない空間です。地上では様々な生物・人間が能力を発揮して、ぎりぎりのところを通り抜けて生き延びてきました。科学技術も一つの能力ですが、一歩間違えると人間は生き延びられなくなります。人間はぎりぎりのバランスをどう舵取っていくか。そのとき大切なのは、工学だけではなく、それ以外の分野、文化・芸術・スポーツなどすべての分野を豊かにすること、それが今問われていることだと思います。

(文責：工学部機能材料工学科 教授 小林敏志)

次回は、歌人 小池 光 氏の「科学のことば 詩のことば」の予定です。



6月7日、8日の二日間にわたって  
黎明祭が行なわれました。



# 黎明祭

R E I M E I - S A I





# 黎明祭

REI MEI - SAI





## 私の中の黎明祭

黎明祭実行委員長  
経済学部3年 連川辰徳

今年度の黎明祭は6月7日、8日の二日間にわたって行なわれました。今年度の企画はステージ、模擬店、スポーツ大会の三つでした。

まず、ステージですが、一日目はミュージックフェスティバル、ダンス、ピアノ演奏が行なわれました。個人的にはピアノ演奏が大変すばらしかったと思います。ちょうど夕暮れ時だったので、ピアノの音色とシチュエーションがぴったり合っていました。そして、大学周辺に舞うあの綿(?)みたいなものによって一食前広場は幻想的な雰囲気にも包まれていたと思います。

二日目はゲストライブとダンスが行なわれました。今年のゲストはスクービードゥーでした。ライブも盛り上がりましたし、二日目もステージは大盛況だったと思います。

模擬店は内模擬、外模擬が開かれました。内模擬、外模擬ともに当初は出店を希望する団体が少なく、どうになってしまうのか不安になった時もありましたが多くの団体に参加していただきました。また、外模擬ではリサイクル容器での販売をお願いしました。この流れは来年にも続けていってほしいと思います。

スポーツ大会では駅伝大会、テニス大会、バドミントン大会、バレー大会が行なわれ、こちらもなかなか好評でした。

以上の内容を作り上げるために私たち黎明祭実行委員会は約4ヶ月間活動してきました。そして、黎明祭が終わり充実感を得ることができました。しかし、その一方で多くの苦悩や開催にたどり着くまでの難しさも感じました。

ここからは私が思うそれらの点について述べていきたいと思います。まず、一点目が開学記念と新入生歓迎という趣旨に黎明祭の内容が合っているのかという点です。二点目が黎明祭実行委員会は校友会をもとに構成されているため、黎明祭を作り上げるノウハウが下の世代に繋がりづらいということも言えます。そして最後が、学生が黎明祭をやりたいと思っているのかどうかという点です。この点は特に疑問に思います。黎明祭は学生の希望によって、学生が主体となり行なわれているものです。しかし、先ほど述べたように模擬店の出店希望団体数は当初大変少ないものでした。また、私自身、実行委員長を希望したわけではありません。そもそも今年度まで黎明祭に来たことはありませんでした。私だけでなく、今年実行委員を自ら希望した委員はほとんどいませんでした。それでは、私を含めどのように実行委員が決められたかということ、じゃんけんです。そんな経緯もあったために、中には委員になったにも関わらず、黎明祭にかかわらずに黎明祭を終えてしまった実行委員もいました。

黎明祭では多くのお金が使われています。そしてそのお金を出しているのは学生です。以上のことを踏まえると、一度学生の意見を聞き、黎明祭は必要なのかどうかははっきりさせるべきだと思います。

とはいえ、今年度の黎明祭では多くの団体、個人からご協力頂きました。この場を借りて感謝したいと思います。